

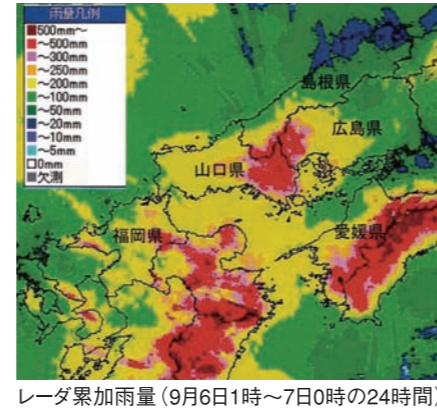
頻発する自然災害

近年、特に平成16年から17年にかけて国内外で大規模な自然災害が頻発しました。海外では、平成16年12月のスマトラ島沖地震による大津波、17年8月に米国南部を襲ったハリケーン・カトリーナ、同年10月のパキスタン大地震などで、国内では、平成16年7月の新潟・福島豪雨、福井豪雨、17年9月に西日本を襲った台風14号などがあげられます。太田川・小瀬川においても、平成16年の台風18号、17年の台風14号などにより、洪水・高潮・土砂災害など様々な被害が発生しています。

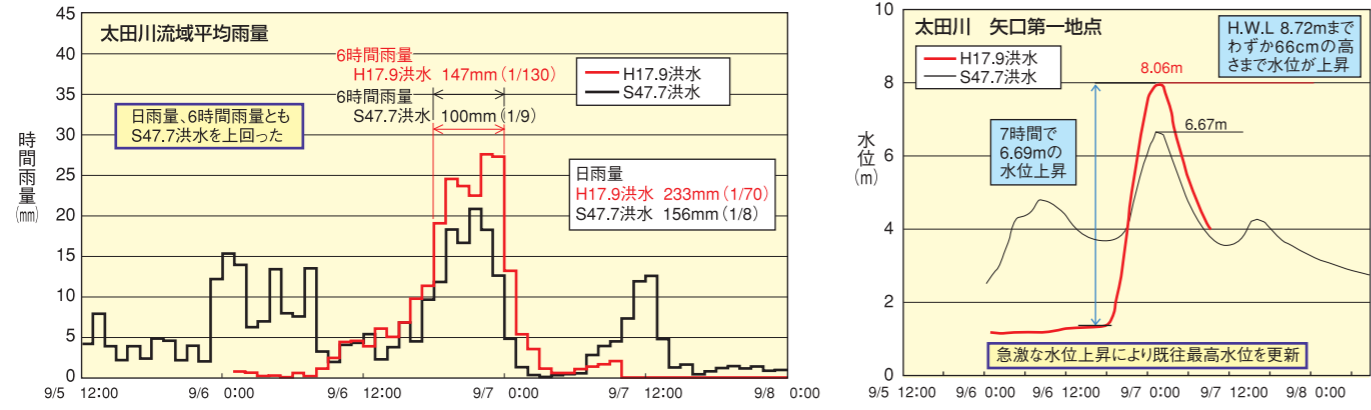
平成17年の台風14号による洪水被害

太田川下流部は、以前は小さな川がいくつも流れており、洪水時には市内派川がはん濫し多くの被害を受けてきましたが、現在では河川改修が進み被害は減少しています。

平成17年の台風14号では、太田川の流域平均雨量が300mmを超え6時間の短時間雨量では既往最大規模の昭和47年7月洪水の100mmを超える147mm記録しました。このため太田川の中上流部を中心に多大な被害が発生しました。一方下流の広島市中心部では、堤防満杯状態で水位が上昇しましたが堤防整備や温井ダム等の洪水調節の効果もあって浸水被害をまぬがれました。



平成17年の台風14号の降雨・水位状況



太田川災害年表

洪水年月日	ピーク流量(m ³ /s)	被害状況 (広島県)	原因
昭和18年 9月20日	6,700	死者39人、住家全壊471戸、堤防決壊397箇所	台風26号
昭和20年 9月18日	5,900	死者1,229人、住家全壊2,127戸、堤防決壊1,252箇所	枕崎台風
昭和26年10月15日	4,500	死者128人、住家全壊・半壊・流失等20,281戸、堤防決壊8,783箇所	ルース台風
昭和40年 7月21～23日	4,300	死者14人、住家全壊35戸、堤防決壊1,080箇所	梅雨前線
昭和47年 7月 9～12日	6,700	死者35人、住家全壊349戸	梅雨前線
昭和51年 9月 8～13日	5,800	死者16人、住家全壊29戸	台風17号
昭和63年 7月21～22日	4,400	死者14人、住家全壊38戸	梅雨前線
平成 3年 9月27～28日	—	死者6人、住家全壊50戸 (高潮災害等)	台風19号
平成11年 6月29～30日	3,900	死者31人、住家全壊70戸 (土砂災害等)	梅雨前線
平成11年 9月21～24日	—	死者5人、住家全壊2戸 (高潮災害等)	台風18号
平成17年 9月 6～ 7日	7,200	住家全壊・一部損壊48戸、床上・床下浸水1,951戸	台風14号
平成18年 9月16～17日	3,400	死者1人、住家全壊・一部損壊9戸、床上・床下浸水525戸	台風13号

(ピーク容量:昭和47年までは玖村、それ以降は矢口第一地点の流量)



大正12年6月洪水 広島市白島町浸水状況 (写真提供:広島市公文書館)



昭和47年7月豪雨 加計付近被災状況

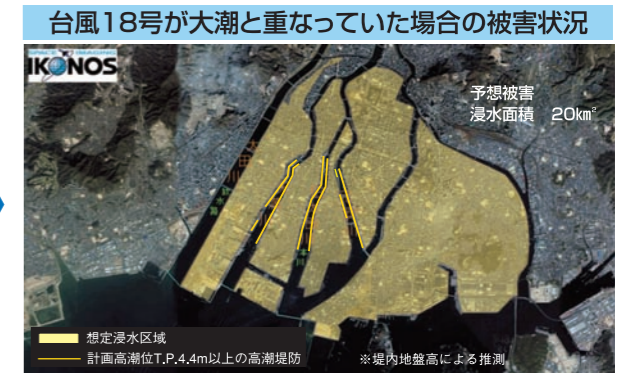
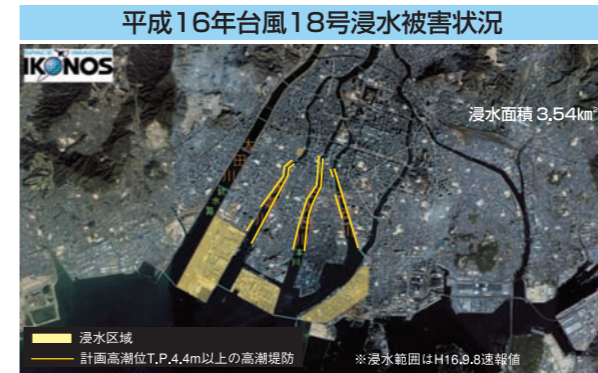


平成17年台風14号被災状況

高潮災害

太田川河口部の広島市中心部は、江戸時代以降の干拓や埋立てにより形成された地域で、大部分が満潮時の海面(約T.P.2m)より低く高潮被害が発生しやすい状況にあります。

平成16年8月30日の台風16号は、1年で最も潮位の高い大潮時期と重なり瀬戸内海沿岸部で多くの浸水被害が発生しました。さらに約1週間後の9月7日に発生した台風18号では、江波検潮所(広島市中区)で観測史上最高潮位(T.P.2.96m)を観測し、市沿岸部で広範囲に高潮浸水被害が発生しました。台風16号時の大潮潮位と台風18号の暴風が重なったと仮定した場合、潮位は最高記録よりさらに約1.2m高いT.P.4.13m(江波)となる可能性があります。(T.P.:東京湾平均海面を0mとした高さの基準で、一般に標高と呼ばれています。)



高潮災害年表

年月日	最高潮位(T.P.m)	偏差(m)	検潮所	被害状況	原因
平成 3年9月27日	2.91	1.81	江波検潮所	床上浸水 423戸 床下浸水 1,220戸	台風19号
平成11年9月24日	2.74	1.84	江波検潮所	床上浸水 216戸 床下浸水 202戸	台風18号
平成16年8月30日	2.78	1.79	江波検潮所	床上浸水 1戸 床下浸水 16戸	台風16号
平成16年9月 7日	2.96	2.09	江波検潮所	床上浸水 86戸 床下浸水 92戸	台風18号



平成16年9月災害 出島箇所浸水状況 吉島橋の下流左岸側



平成11年9月災害 越波状況 天満川右岸観音新町



平成18年9月台風13号災害 城田川 (安佐北区)

土砂災害

広島県の山地は、風雨により「マサ土」と呼ばれるもろく崩れやすい土に変化する広島花こう岩が広く分布しており、土石流やがけ崩れなどの土砂災害が起こりやすく、過去から多数の土砂災害が発生しています。さらに、近年山裾まで宅地開発が進み、土石流が発生した場合に被害が大きくなる箇所が増えています。

平成11年6月には死者24名という大きな土砂災害が発生しました。また、平成18年9月の台風13号では管内の広島市安佐北区可部町綾ヶ谷において、土石流による被害が発生しました。

土砂災害年表

年月日	発生場所		人的被害(人)		被害家屋(戸)			原因
	河川名	位置	死者	負傷者	流出	全半壊	浸水	
昭和20年 9月17日	丸石川他	廿日市市(含大野町)、呉市他	1,775	1,054	1,330	5,502	52,526	枕崎台風
昭和26年 10月14日	中津岡川他	大竹市、廿日市市(含大野町)他	132	361	350	1,983	23,588	ルース台風
昭和42年 7月 9日	浜田川他	呉市他	159	231	—	1,119	59,939	梅雨前線
昭和63年 7月21日	江河内谷川他	安芸太田町(旧加計町)他	14	11	—	58	531	梅雨前線
平成 3年 9月27日	田吹川他	安芸太田町(旧戸河内町)他	6	49	—	492	12,167	台風19号
平成 5年 7月28日	田吹川他	安芸太田町(旧戸河内町)他	3	—	—	819	—	台風5号
平成11年 6月29日	大毛寺川他	広島市、呉市他	24	14	—	138	—	梅雨前線
平成17年 9月 6～ 7日	八幡川他	広島市、廿日市市(旧宮島町)他	—	12	—	48	1,951	台風14号
平成18年 9月16～17日	城田川他	広島市、安芸高田市他	1	8	—	9	525	台風13号